

神戸大学学報

No. 368

1987. 5 庶務部庶務課発行



《昭和62年度 入学式（兵庫県立文化体育館）》

目	次
昭和62年度入学式式辞..... 2	◇学内規則..... 13
昭和62年度入学式式辞—医療技術短期大学部—..... 4	◇人事..... 15
◇学内ニュース..... 8	◦異動 ◦研修 ◦海外渡航
◦新役員紹介	◇学事..... 18
◦昭和62年春の生存者叙勲	◦学位取得
◦神戸大学名誉教授称号授与式の開催	◦昭和62年度科学研究費補助金の交付内定
◦昭和62年度公開講座実施計画の案内	◇掲示板..... 31
◦故井上庄七教授の文学部・文化科学研究科 合同葬の挙行	◦職員の住所変更等
◦訃報	◦改姓
◦福利厚生用具の貸出	◇日誌..... 32

昭和62年度入学式式辞

学長 新野 幸次郎

本日ここに部局長の皆さんの御臨席を得て、昭和62年度の入学式を挙げて下さることは、神戸大学にとって何よりも喜びに耐えないことでもあります。本年、難関を突破して栄冠に輝いた方は、第二課程の皆さんを含めて総計2,545名であります。また養護教諭特別別科に39名の方々も入学されました。皆さん本当におめでとうございます。私は神戸大学の教職員及び在学生諸君とともに、新入生の皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

本年は改めて申し上げるまでもなく、極めて大幅な入試制度の改革が行われました。どんな改革でも微調整だけであったならその変化についての結果の予測が混乱することがありません。ところが、本年全国の国公立大学は、受験生の皆さんや高等学校の関係者の皆さんの永年のご希望に応えようとして、共通一次試験の教科数や科目数を減らしただけでなく、すべて皆さんに満足を与えられるものでないとしても、国公立大学の複数受験ができるように制度改革もしました。私も入試の実施責任者としては、それによって発生するだろうと予想されるいろいろな問題点については検討を重ね準備を進めてきました。しかし、必ずしも情報提供が十分でない面があったこと、及び、若干の点で配慮が不足したといわねばならないこともあって、特に受験生諸君に困惑を与えた点のあったことは今後改善すべきこととしていま真剣に検討を重ねているところであります。その点こうした改革に伴う諸問題があったにもかかわらずそれらを見事に乗り越えて入学の栄冠を得られた諸君の喜びはまた格別のものがあると思います。

ところで皆さん、今度の国立大学の入試改革は



単に入試だけに眼を向けたものではありません。それはなによりも、一方では今日ますます激化しつつある受験戦争へのささやかではあります、新しい接近のための序章的工夫であり、今後一層の改革を惹起するものであるとともに、他方では伝統的な大学教育の内容とその手法についての改革に眼を向けようとする性向をも含むものであります。

御承知の通り従来、小学校から高等学校までは、生徒はただ先生が教えることを覚えさえすればよいといわれてきたのに対して、大学では、教授は学生諸君に教えるのではなく、学生諸君が自分で学習し、研究するように啓発するのだといわれてきました。

ところが最近では、大学生になってもいままでの高校生のように何でも先生に聞いて教わろうとする気持の人がふえてきました。大学ではこの変化に対しても即応しながら諸君が従来とは違った意味で、自分で考え、新しい創造を可能にするような人間に育てゆくための方法を模索しようとしています。日本の大学教育にとっていま必要なことの一つはいかにして独創的な人間を育成するかであります。

入試改革は、やがて大学におけるこうした教育の改革と連動しはじめることになるであろうと考えられます。

大学教育といえば、諸君はこれから経験したことの無い生活をはじめることになります。その一つは、一部の必修科目を除いてどの授業科目を取るかを自分で選択することになることでもあります。しかも、授業の多くは必ずしも出席を取ったり、出席を強制したりしていません。

それは諸君を全く自由で、自分の行為についてその責任をとる紳士として扱うことを意味しています。ところが、諸君を自己責任をとる紳士として扱うことは、諸君にとって実に多くの課題を担わせることになります。それは自分で研究しようとする人と、そうでない人とを明確に区別することになります。自分で考えそれぞれ異なった家庭と環境とで育てあげられてきたユニークさを大切に自己形成をしようと努める人と、他人の考えに盲従し、自分自身の個性と独自性をつくることよりも、自分たちと異なった考え方をし、行動をしようとする人を批難することに興味をもつ人など、皆さんを多様に区分したりします。

大学生になった諸君は、今日ただ今から、こうしてまず第一に自分自身との闘いに直面し、それに勝たなければなりません。

私は今日皆さんが入手することになる小冊子『学生生活案内』の冒頭に「一般教養を生かせる人間になろう」という題で小文を書きました。

諸君はこれから一年半、ただし医学部の諸君は二年間、教養部で生活することになります。

ところが、その教養部は、高校の授業の繰り返しにすぎないとか、一般教育科目は専門科目ではないから勉強してもつまらないとかいう人があります。その意味では皆さんがこれから学ぶことになる一般教育ということの意義をここで考えておくことは大切なように思います。そこで私がそこで書いたことのポイントだけでも、ここで取り上

げてみることにします。

我が国の高等教育の中に一般教育がとり入れられるようになったのは、昭和24年からスタートしたいわゆる新制大学においてであります。それは端的に言って第二次大戦を起すことになった戦前の我が国の教育、とくに高等教育がどちらかといえば、技術教育を中心とし、人間一般に不可欠である諸条件と、人間性を生かすのに必要な社会と科学技術のあり方についての追求を無視していたからであるとの反省ないし批判から生まれたものであります。これはともすれば一般教育を単なる教養科目ないし専門科目のための基礎科目と同一視してしまうことに対する警告でもあります。私たちは、いまあらためて新制大学創設時の一般教育導入の意味とそのねらいとを真剣に再検討し、それを教養部での教育の中に生かすことを考えねばなりませんし、諸君自身一般教育の勉強の中でそのことを十分考えて頂くことが必要であります。

こうした反省は、昭和30年代及び40年代半ば過ぎまでのいわゆる高度成長と、それに伴う公害、ないし環境汚染と破壊のときにも起りました。その際には科学・技術がいわゆるノウ・ハウ中心に展開され、それが何のために利用されるのかについて検討が欠けていることが問題となり、科学・技術についての専門的研究をしようとするればするほど何よりも一般教育が充実していることが必要であることが認識されるようになりました。

最近では、それに加えてもう一つの一般教育の役割も自覚されるようになってきました。最近の科学的研究、とくにその新しい展開のためには、従来とは異なった新しい着眼点、とくに学際的で、総合的な視野が必要なが着目されるようになりました。そのためには、安易なノウ・ハウ追求型の思考よりも、じっくりと体系的に、一般教育を消化してみるものが望まれます。私は、皆さんが一般教育をどれだけ自己確立に利用できるかで、皆さんのこれからの専門家としての成長可能性が

規定されるといってよいと思います。そのためには、かつてアメリカの高等教育の改革に一頁を画することになったシカゴ大学のハリチンズ学長のよう、古今東西の偉大な哲学者や科学者や文学者のすぐれた著作と対決し、かれらの著作を深く広く読むことを通じて諸君自身がその人たちと「偉大なる会話」を重ねてみることも一案かもしれません。

しかし、それと同時に諸君、この変動の激しい社会で生き抜き、満足できる仕事をするためには、何よりも頑強な肉体と逞ましい精神とを鍛えておかねばなりません。そのためには、これから諸君がこの四年間、各種の課外活動で、一生つきあえ、率直に批評をし合える先輩・学友・後輩を見出す

昭和62年度 入 学 式 式 辞—医療技術短期大学部—

学 長 新 野 幸 次 郎

本日ここに神戸大学医療技術短期大学部の入学式を挙げるに当たりまして、一言、式辞を申し上げさせていただきます。本日は、神戸大学の部局長の皆さん方の御臨席をいただき、さらに、たくさんのお父兄の皆さんも御出席をいただきまして、この桜の咲いている真っ最中に、友が丘の美しい学舎におきまして、昭和62年度の入学式を挙げることは、神戸大学医療技術短期大学部にとりまして、喜びにたえないところでございます。皆さんは、今年、従来よりもより厳しい競争率を突破されまして、見事に入学の栄冠を勝ちとられました。本日、ここに入学の手続きをなさった方々は、看護学科が81名、衛生技術学科が40名、理学療法学科21名、作業療法学科が20名計162名の方々にございます。

皆さん、本当におめでとうでございます。心から

ことに努めてください。私は大学のありがたさは、何よりもそこでよき師と先輩・学友を見出す機会が与えられているということにあると思います。幸いにして、諸君が入学された神戸大学はひとり日本だけでなく世界の中でも最も美しい環境に恵まれ、しかも開放的で屈たくなかない人たちが集まっており、なによりもそれぞれの分野で素晴らしい業績をあげておられる先生方がおられます。

私は、この素晴らしい環境を生かして皆さんが今日のように眼を輝かしてこの四年間をお過しになることを祈ってやみません。それによって神戸大学が皆さんにとって永遠の心のふるさとになることを期待し式辞といたします。

(昭和62年4月10日 於兵庫県立文化体育館)

お喜びを申し上げたいと思います。皆さんが今日の栄冠を勝ちとるに至りましたのは、皆さん自身の日頃の努力の結果ではございますけれども、それと同時に何よりも、今日まで皆さんをささえてこられました。御父兄の皆さん方、それから、皆さんの先輩、後輩、学友の方々、それから何よりも、さらに、先生方のお力によるところが、大きいと思います。皆さんは、これから、受験戦争を長い間戦いぬいてこられた一種の解放感と、それから、今、本当に新しい大学を目指して、目標を作ってやりとげてこられた喜びのようなものにひたっていっていらっしゃるのだと思います。

しかし、皆さんはこれから3年間、非常に厳しい勉強をしていただかなければなりません。というのが、皆さんのこれからの学習というのは、単に机の上の勉強だけではなくて、かなりたくさん

の実習も経ていただかなければならないようになっております。どうして、こんなに厳しい勉強をしていただくようになったかと申しますと、皆さんがこれから相手をしようとしている方々というのは、御存じのように、いろいろな意味で病をお持ちになっている方、そこから立ち直って、これから立派に社会に復帰をなさろうとしている方、そういう人々が何よりも皆さんを頼りにして生きていこうとしていらっしゃる、その方々への期待に答える力をこの3年間に鍛え上げられなくてはならない、そういう性質の仕事に、勉強になっております。もし、そうだとしますと、皆さんが本当にこの大学で勉強していただきまして、自信をもって、それらの方々の期待に答えていただくようにしようと思つて、かなり、今言いましたように、厳しい勉強をしていただくと同時に、実習もしていただかなければならないようになります。国の方では、御存じのように、こういうお仕事に対しまして、一定の国家試験をやつて、資格を付与するという形をとっております。これも権威のある職業人として、皆さんがこれから一生を送っていただくために必要な前提条件でございます。従いまして、大学におきましても各科の先生方が、これから皆さん方の教育について、本当に力をつくして、御尽力をいただくはずでございます。さらに、そのためにも、学生数はできるだけ制限をいたしまして、先程いいましたように全体で162名、各科多くて看護学科で80名というような形で対応しているわけです。おまけに、この医療技術短期大学部は、幸いにして新しいということも一つはございますけれども、全国の医療技術短期大学部の中でも、最も設備の優れた大学の一つとして、多くの医療技術短期大学部から、羨ましがられている大学でございます。そういう意味でも、これから皆さん方に全力をあげて頑張つて3年間を過ごしていただくように、お願いをしたいと思います。

ところで、私は先程、皆さんこれからこの大学におきまして、立派な職業人として、育ていただくように私ども準備していると申し上げました。ところが、私たちの短期大学部というのは、決して職業学校ではございません。いわゆる専門学校ではございません。あくまで、神戸大学に附置されております、神戸大学医療技術短期大学部でございます。従来からいわれられていたこととございませぬけれども、パラメディカルという言葉がございませぬ。このパラメディカルな人々を養成していこうとするときに、技術についての研修も絶対不可欠でございますから、私ども皆さんに随分の課題を背負わして、仕事をしていただくことになりませぬけれども、しかしながらそれと同時に、メディカルな仕事に関係して一番大切なことは、患者を、或るいは、一般に人間を愛し、その人間の心の奥底にまで愛情をもって接するような、人間を作り上げていくことが必要になってまいります。そういう意味で、私どもの大学では、単なる職業学校とは違ひまして、一般教育というのも、1年生それからその後でも皆さんにしっかりと身につけていただくように、工夫をしております。

一般教育という言葉は、皆さんがお聞きになったと思つていただいても、我が国では、第二次世界大戦のあと、いわゆる新制大学が作られるようになりましてから、初めて、大学教育の中に採り入れられたシステムといひますか、教育科目でございます。アメリカは御存じのように、非常にたくさん民族が集まっております、そして、一つの国家を形成しております。私たちが考えられないほどたくさん民族が集まっております。そのたくさん民族の人々は、考え方も違ひますし、宗教も違ひますし、かつて生活していた制度も、社会構造もみんな違ひております。その人々を一つのまとまった国民として、教育をしていこうといたしますと、そのお互いの歴史、お互いの制度の違ひ、宗教の違ひ、それから価値感の違ひ、と

というようなものをちゃんと理解をして、お互いに尊敬しあうというような人間を作りあげてゆくことが必要になります。それだけではございませんで、語学一つにいたしましても、英語が全然わからない人が、たくさん集まっている国ですから英語をただ教えるだけではなくて、英語でものを考えることの特徴のようなもの、なぜこういう考え方をしなくてはならないか、ということをお互いに理解してもらおうような、そういう教育が必要になってまいります。皆さんがひょっとして、これからアメリカの小学校や中学校に、いらっやいますと多くの小学校、中学校で教室の中まで、星条旗が掲げられているところに、気がつかれると思います。我が国ではそういうことは必要ではございません。多くの民族が違う生れ、違う性格をもって、あの国は集まっているから、一つのまとまった国民としての意識をどう作りあげていくか、人間としての意識をどういう具合にして作りあげていくか、ということが非常に大きな課題になるわけです。そのために、一般教育というのが最も大切な教科目として設定されており、今日までのアメリカを作ってまいりました。これは、一口でいいますと、人間として一番大切な問題は何か、それをどのように我々が考えたいかということをお互いに確かめあう、そういう教科目であるというように考えていただければと思います。

その点、我が国は御存じのように第二次世界大戦までは、技術を大體中心にして、大学教育を或いは高等教育を行ってまいりました。占領軍が戦後日本に参りまして、我が国の教育の最も欠けているところは、その人間として最も大事なものについての深い教育、あるいは洞察を行うような教育システムになっていないという反省でございます。そこで一般教育を、新制大学の最も重要な基礎部分に置いておくという制度が作られ今日に至りました。そこで、私どもの短期大学部におき

ましても決して十分とはいえませんが、その一般教育を一番重要な科目の一つとして、設定しております。そこでは、人間についての基礎的な知識、尊敬の念、それから誰にも理解される人間に対する深い愛情をもった人間作りをするための工夫がなされております。私たちの一般教育は、決して十分とはいえませんが、しかしながら、看護学科をはじめ各学科の教育が、ともすれば技術的なものになり易いことをたえず先生方も憂慮しながら、一般教育の精神を皆さんの中に、しっかりと根づかしていただけるように、努力をしているはずでございます。これと関連して、どうしてもお話をしておきたいと思ふことは、人間的な訓練の問題でございます。

皆さんは、先程いいましたように教室の中で勉強しなければならないことが非常にたくさん山積をしている、そういう生活に直面されることだと思います。大学で一番大切なことか、意味のあることの一つは、もちろんそういう知識を勉強していただくことでございますけれども、しかし先生との、あるいは学友との、先輩、後輩との人間的な接触、これを通じて、皆さん自身の人間訓練を、あるいは錬成をしていただくということが非常に大切なように思います。そのためには、私は、皆さん方ができるだけ時間が少いかもかもしれませんけれども、クラブ活動のようなものには、参加をして力をつくしてみられることが、望ましいのではないかと考えております。聞きますと、この大学には、20ぐらいのクラブがあるようでございます。他の大学に比べて、かなり活発な活動が行われているようで、私は大変いいことだと考えております。特に同じクラブの中におきましても、体を動かして、いろいろ活動するクラブ活動といふのは、皆さんにとって非常にプラスになるように、私自身思います。と申しますのは、口先だけでいっておりますといふような事が、頭の中ではできるよ

うになります。しかし、体を動かすクラブ活動をやりますと、口先ではどんなにいい事をいっていても、思うようにそのとおりに体が動いてくれません。体を動かすことを通じて、ある活動をするようになってまいりますと、いろんな勉強をしなくてはならないことを体で覚えるということを通じて、体で動いていこうといたしますと、口先でいくらいいことをいっていても、できること、できないことがはっきりいたしまして、いふなら、裸の自分を皆んなの友達の前で見せあうこととなります。口先で偉いことをいっているけれども何もできないのではないかという自分をさらすことができるようになります。そのことを通じて、実は、お互いを尊敬する気持ちが生まれてくるものでございます。そのことを通じて、また体で覚えたことを一生忘れないような、そういう訓練の仕方を覚えるものでございます。私はこういう、体で覚えて頭で覚えられないものを、この3年間の間に、しっかりと身につけていただくように、お願いをしたいと思うわけです。と同時に、単にクラブ活動だけが、体で覚える仕事ではございません。皆さんの実習科目の中には、本当に体で覚えなくてはならないいろんなものがたくさんあるように思います。どうかこの3年間を単に頭で勉強するのではなくて、体で身につけるように心がけて、成長していただきたいとお願いしたいと思います。私は今日、もっと外の事もお話をしたいと思っております。しかし、今日お話したようなことは、考えて見ると一種のオリエンテーションに近いような事でございます。しかし、今、皆さんが、この輝かした目で、大学に入られたその最初に、これから何にポイントをおいて、3年間を過ごしていただいたらいいかという事を申し上げておくという事は、非常に有意義なように考えました。どうか、これから3年間を皆さんほんとに力をつくして、明るい学園生活を送るように頑張ってい

ただきたいと思ふます。

今日初めて、こうして先生方と向かいあい、そしてたくさんの御父兄の見守っている中で入学式を行うことができました。今日の日の感激を3年後の卒業式の日まで忘れないで、持ち続けていただくようにしていただきたいと思ふます。と同時に、実は今日の日の決意のようなものは、これから一生かけて、皆さんが持ち続け、そしてお互い、それぞれの人生を終る時に、あの時、あの大学に入って、そして勉強したことが、自分をこういう具合にしてくれたといえるようになっていただけたら私も教師として、大変幸せに思うわけでございます。

どうか、お元気に頑張ってください。

(昭和62年4月9日 於医療技術短期大学部体育館)



学内ニュース

◇新役員紹介

(4月2日発令)

*保健管理センター長



ながい いさむ
教授 長井 勇

(昭和8年10月24日生)

—略歴—

(学歴)

昭和33年3月 神戸医科大学卒業

(職歴)

昭和38年4月 神戸医科大学副手

昭和39年7月 " 助手

昭和42年6月 神戸大学助手(医学部附属病院)

昭和46年9月 " " (医学部)

昭和48年5月 " 講師(医学部附属病院)

昭和52年7月 " " (保健管理センター)

昭和55年4月 " 助教授(")

昭和58年4月 " 教授(")

昭和58年4月 神戸大学保健管理センター所長
(昭和60年4月1日まで)

昭和60年4月 " "
(昭和62年4月1日まで)

昭和62年4月 " "
(昭和64年4月1日まで)

(学位)

昭和38年3月 医学博士(神戸医科大学)

*総合情報処理センター長



えだむら としろう
教授 枝村 俊郎

(昭和3年9月10日生)

—略歴—

(学歴)

昭和29年1月 京都大学工学部土木工学科卒業

(職歴)

昭和42年1月 神戸大学助教授(工学部)

昭和43年10月 " 教授(")

昭和62年4月 神戸大学総合情報処理センター長
(昭和64年4月1日まで)

(学位)

昭和43年7月 工学博士(京都大学)

◇昭和62年春の生存者叙勲

このたび、本学関係の受章者は次のとおりです。



◦ 4月29日
勲三等旭日中綬章
柏木 大治
(神戸大学名誉教授)



◦ 4月29日
勲三等旭日中綬章
佐藤 孝
(神戸大学名誉教授)



◦ 4月29日
勲三等旭日中綬章
早川 武夫
(神戸大学名誉教授)

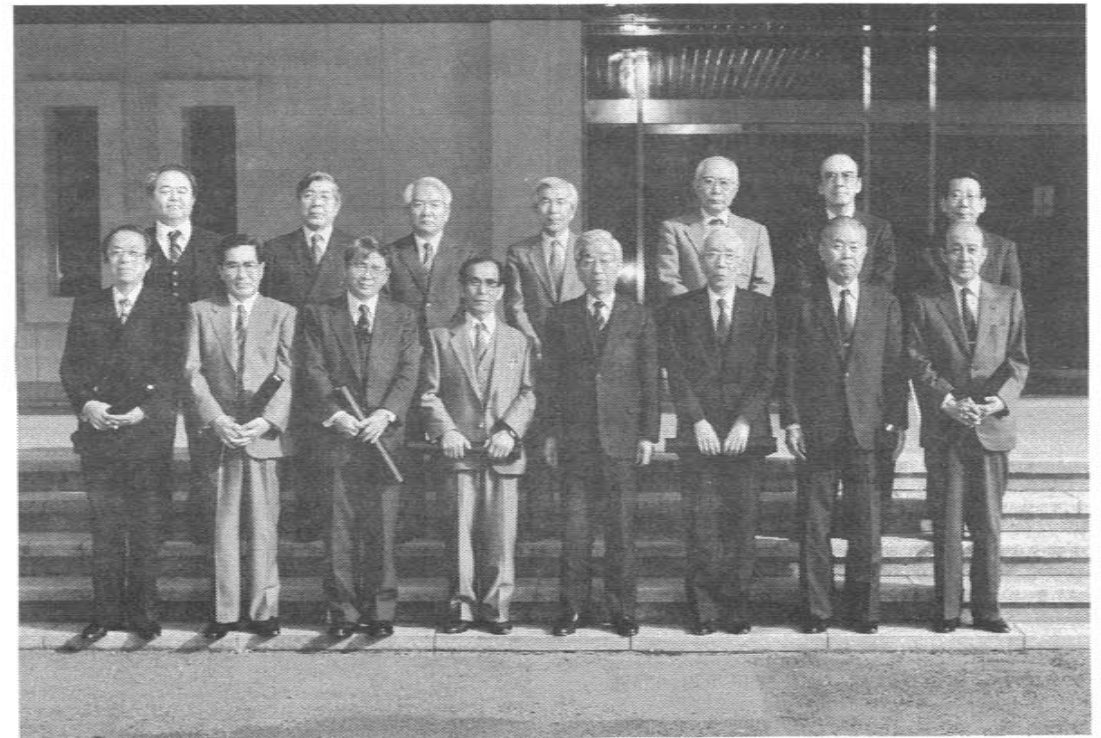
◇神戸大学名誉教授称号授与式の開催

4月16日(木)午後4時から学長室において、神戸大学名誉教授称号授与式を開催し、次の方々に称号を授与しました。授与式終了後、本庁舎中会議室で新名誉教授と評議員との懇談パーティを開催しました。

4月1日付

(前所属官職)

文学部教授	岩見 宏
文学部教授	高尾 一彦
教育学部教授	大段 員美
教育学部教授	大西 正男
経済学部教授	新保 博
経営学部教授	荒川 祐吉
工学部教授	角田 美弘
工学部教授	松 梨 順三郎
教養部教授	井澤 義雄
教養部教授	田口 寛治
教養部教授	長谷川 正知
経済経営研究所教授	井上 忠勝



◇昭和62年度公開講座実施計画の案内

例年本学では、全学計画としての公開講座や、各部署の特性を生かした独自の講座、スポーツ教室を開講していますが、今年も農学部が淡路地区で公開講座を開講することになり、全学で9講座となりました。

ここにそれぞれの計画の概要をお知らせします。

学部名	講座名	開設時期	時間数	講習料	対象	募集人数	開設場所	連絡問合せ先
全学	神戸からの探検	自 9月12日(出) 至 11月7日(出) 毎週 土 8日間	時間 24	円 4,200	一般成人, 学生	300	神戸大学 農学部講義室	庶務課 企画広報掛 内線 2018~2019
経営学部	転機に立つ日本企業	自 6月20日(出) 至 7月11日(出) 毎週 土 4日間	12	3,000	企業の中堅管理職, 経営者 一般社会人	250	神戸大学 経営学部講義室	経営学部 庶務掛 内線 3412~3413
理学部	生物の構造・地球の構造	自 8月24日(例) 至 8月28日(例) 毎日(8/26除く)4日間	24	4,200	高等学校教員	50	神戸大学 理学部講義室	理学部 庶務掛 内線 4312~4313
医学部	糖尿病の予防と治療	自 10月31日(出) 至 11月28日(出) 毎週 土 5日間	15	3,000	一般成人, 学生 (18才以上)	120	神戸大学 医学部第2講義室	医学部庶務掛 078(341)7451 内線 3020~3021
工学部	高度情報化社会をにぎる新しい科学技術の展開	自 9月19日(出) 至 10月31日(出) 毎週 土 6日間	20	3,600	一般社会人	100	神戸大学 工学部講義室	工学部庶務掛 内線 5012~5013
農学部	食品の科学	自 7月13日(例) 至 7月18日(出) 毎日	18.20	3,600	一般成人	100	神戸大学 農学部講義室	農学部庶務掛 内線 4612~4613
農学部	淡路島・三原地区 宮農技術大学講座	自 8月18日(例) 至 8月19日(例) 毎日	12	3,000	三原地区農業関係者	120	三原郡農協	農学部庶務掛 内線 4612~4613
医療技術短期大学部	家庭内での医療—老いを考える—	自 6月6日(出) 至 7月4日(出) 毎週 土 5日間	15	3,000	一般成人, 学生	70	神戸大学医療技術短期大学部図書館 カンファレンスルーム	医療技術短期大学部庶務掛 078(792)2555
教養部	スポーツ教室(少年サッカー)	自 7月11日(出) 至 7月22日(例) 毎日(日曜日は除く)	20	3,600	中学1年生	30	神戸大学 教養部グラウンド	教養部学生掛 内線 6020~6021

◇故井上庄七教授の文学部・文化科学研究科合同葬の挙行

文学部の井上庄七教授には、去る3月16日午後6時45分気管支喘息による呼吸不全のため急逝されました。享年62才でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正13年7月大阪市に生まれ、昭和22年9月京都帝国大学文学部哲学科を卒業し、昭和23年6月神戸経済大学勤務、昭和24年7月文理学部助手、昭和26年12月同講師、昭和29年4月文学部講師、昭和38年10月同助教授、昭和42年12月同教授となり、38年余の永きにわたって西洋哲学史

の教育・研究に尽力され、また、本学評議員、附属図書館文学部分館長として、大学及び文学部、附属図書館発展のためご活躍されました。

文学部及び文化科学研究科では、4月25日(土)午後1時30分から文学部351教室において、伊藤道治文学部長・文化科学研究科長を葬儀委員長として、ご遺族、学長、部局長、名誉教授、学会関係者、バレーボール部関係者、教職員、在学生、門下生等約250名の参列のもとに文学部・文化科学研究科合同葬を厳かに執り行いました。

合同葬は、伊藤邦武助教授の司会により、参列者全員の黙禱、森助教授による故人の経歴朗読、葬儀委員長、新野神戸大学長、向井守哲学教室代表、沖野政弘受講生代表が弔辞を述べられ、山本助教授による弔電披露に続いて、井上先生の友人の森田良紀学習院大学文学部教授、中村賢二郎京都大学人文科学研究所教授、同僚の伊藤正文教授、山縣熙教授、女子バレーボール部を代表して藤田千鶴子氏から故人を偲ぶお話があり、ご遺族及び代表各位による故人のご遺影に白菊を献花しました。

最後に葬儀委員長、及びご遺族を代表して井上洋一氏から挨拶があり、合同葬を終了しました。

—文学部・文化科学研究科—



◇計 報



教養部教授川端柳太郎先生は、去る4月9日午前11時5分、
のため逝去されました。

享年55歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和28年3月金沢大学法文学部を卒業し、さらに昭和30年3月明治大学大学院修士課程を修了、龍谷大学文学部助教授を経て、昭和47年4月神戸大学教養部助教授に就任、昭和53年4月同教授となり、15年にわたって本学における教育・研究に尽力されました。

先生の専門は、アメリカ文学であるが、その関心は常に広汎にわたり、遂に西洋小説における時間意識の変遷についての研究という独自の境地を拓きました。主著『小説と時間』はその方面の研究の嚆矢として、学界で高く評価されています。また、市民ひとりひとりに自己発見の手段として、「自分史」執筆を勧め、自分史ブームの火付け役ともなりました。

そのほか、昭和61年1月からは神戸大学公開講座委員として活躍、受講者の好評を博したことも人びとの記憶に新しいところであります。

なお、葬儀は4月11日(土)午後1時から、神戸市東灘区御影町の中勝寺で執り行われました。

御遺族の住所は、次のとおりです。

〒600-0000 神戸市東灘区御影町中勝寺

川端柳太郎様

◇福利厚生用具類の貸出

全学共同利用の貸出物品として下記のものがありますのでお知らせします。利用希望の職員は、人事課福祉掛へお申し込みください。

用具種類	規格・名称等	数量
ラジオ	ソニーICF-M10	4
ラジオ付カセットテープレコーダー	ナショナルRX-C50	1
〃	ナショナルRX-FM24	1
ラジオ付Wカセットレコーダー	ナショナルRX-F22	1
マイクロカセットテープレコーダー	サンヨーMR-82	1
タイピン型マイク	同上用	1
トランシーバー		1
マイクロホン	ソニーワイヤレスマイク	1
ワイヤレスアンプ	ナショナルWX750/2.4	1
ワイヤレスアンプ	同上用 W410 W480	2 1
電気メガホン	ナショナル	1
カメラ	キャノンオートボーイ3	2
ホームビデオ一式(VHS)	日立マスタックス	1
ビデオムービー一式(VHS)	ナショナルマックロードM21	1
カメラ一体型8mmビデオ一式	ソニー CCD-V8 AF	1
撮影機	サンキョースーパーCM 8m/m	1
幻灯機	ツインキャビンオート 35m/m	1
スクリーン		1
双眼鏡	ビクセン	2
ベース	ソフトボール用	2
巻尺	50m	1
ゴルフハーフセット	W1,3 B,5,7,9,SW, P	一式
対局時計	チェスロックA-3	20
発電機	マキタ G700	1

物品名	個数	物品名	個数
テント(6人用)	10	マナイタ	6
〃(4人用)	5	ナタ	2
〃(3人用)	4	スコップ	1
〃(2人用)	3	布バケツ	13
リュックサック	5	クーラー	7
ハンゴ	10	カドニカライト	4
コッヘル	7	ゴムボート(4人用)	1
食器	6	ビーチパラソル	1
ランタン	8	ポリタンク(大)	2
水筒	10	〃(小)	12
ガスコンロ	3	釣竿	5
バーベキューセット	2		

学内規則

◇神戸大学学則の一部を改正する学則

(昭和62年4月16日制定)

改正要点

- 1 臨時増募に係る文学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、工学部及び農学部の入学定員について附則に規定したこと。
- 2 学部及び大学院の学生定員を改めたこと。(学年進行分)

神戸大学学則の一部を改正する学則を次のように定める。

昭和62年4月16日

神戸大学長 新野 幸次郎

神戸大学学則の一部を改正する学則

神戸大学学則(昭和33年5月15日制定)の一部を次のように改正する。

附則第3項を次のように改める。

3 別表に規定する入学定員には、当分の間、次に定める定員を含むものとする。

文学部	哲学科	6人
	史学科	6人
	文学科	8人
法学部	法律学科	30人
経済学部	経済学科	30人
経営学部	経営学科	10人
	会計学科	10人
理学部	数学科	5人
	物理学科	5人
	化学科	5人
	生物学科	5人
工学部	建築学科	10人
	電気工学科	10人
	機械工学科	10人
	土木工学科	10人

工業化学科	10人
計測工学科	10人
化学工学科	10人
生産機械工学科	10人
電子工学科	10人
システム工学科	10人
環境計画学科	10人
農学部	園芸農学科 10人
	植物防疫学科 5人
	農芸化学科 10人

別表学生定員1学部の表を次のように改める。

別表 学生定員

1 学部

区分	入学定員		総定員		
	学科課程別	計	学科課程別	計	
文学部	哲学科	36	126	420	
	史学科	36	126		
	文学科	48	168		
教育学部	小学校教員養成課程	270	1,080	1,680	
	中学校教員養成課程	100	400		
	養護学校教員養成課程	20	80		
	幼稚園教員養成課程	30	120		
法学部	法律学科	230	230	830	830
経済学部	経済学科	270	270	990	990
経営学部	経営学科	90	330	990	
	会計学科	90	330		
	商学科	90	330		
理学部	数学科	30	105	500	
	物理学科	30	105		
	化学科	30	105		
	生物学科	20	65		
	地球科学科	30	120		
医学部	医学科	120	120	720	720

工学部	建築学科	60	210			
	電気工学科	50	180			
	機械工学科	70	260			
	土木工学科	70	250			
	工業化学科	50	180			
	計測工学科	50	180			
	化学工学科	50	170			
	生産機械工学科	50	170			
	電子工学科	50	170			
	システム工学科	50	170			
環境計画学科	50	180				
農学部	園芸農学科	50	170			
	植物防疫学科	25	85			
	農業工学科	30	120			
	農芸化学科	50	170			
	畜産学科	30	120			
小計	2,355	8,915				
法学部	法律	第2課程	60	60	360	360
	法学	三年次編入学員	20	20		
経済学部	経済	第2課程	60	60	360	360
	経済	三年次編入学員	20	20		
経営学部	経営	第2課程	30	70	150	350
	会計	第2課程	20		100	
	商学	第2課程	20		100	
小計	230	1,070				
合計	2,585	9,985				

同表2 大学院の項中

教育学部	学校教育学専攻	10	20
	国語教育学専攻	5	10
	社会科教育学専攻	10	20
	数理学専攻	5	10
	理科学専攻	10	20
	音楽教育専攻	5	10
小計	70	135	

人事

◇異動

所属部局職官	氏名	発令日	異動内容 (異動前の所属官職)
事務局 (経理部) (経理課)			
文部事務官	田川 俊二	5.1	採用
	川又 圭一	"	出向〔茨城大学附属図書館農学部分館文部事務官〕(文部事務官)
(学生部) (学生課)			
総務主任	正井 樹	"	配置換(課外活動主任)
	西村 憲治	"	出向〔岡山大学医学部附属病院医事課医事主任〕(総務主任)
文部事務官 (入学主幹付)	長井 勝典	"	採用
	藤中 里美	"	4月30日限り退職(事務補佐員)
総合情報処理センター			
センター長	枝村 俊郎	4.2	併任(工学部教授)
事務補佐員	吉中 由紀代	5.1	採用
	奥村 小百合	4.30	退職(技術補佐員)
保健管理センター			
所長	長井 勇	4.2	併任(教授)
教育学部			
文部事務官	林 靖博	5.1	配置換(管理課文部事務官)
(附属住吉校)			
臨時事務員	芝崎 美江子	4.13	採用
(附属幼稚園)			
技術補佐員	森垣 芳恵	4.10	"
(附属養護学校)			
臨時事務員	田中 博文	4.13	"

研究科	美術教育学専攻	5	10
	保健体育専攻	5	10
	技術教育学専攻	5	10
	家政教育学専攻	5	5
	英語教育学専攻	5	10

教育学部	学校教育学専攻	10	20
	国語教育学専攻	5	10
	社会科教育学専攻	10	20
	数理学専攻	5	10
	理科学専攻	10	20
	音楽教育専攻	5	10
	美術教育学専攻	5	10
	保健体育専攻	5	10
	技術教育学専攻	5	10
	家政教育学専攻	5	10
英語教育学専攻	5	10	
合計	70	140	

合計	378	151	129	62	751	302	387	248
----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----

合計	378	151	129	62	756	302	387	248
----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----

に改める。
 附則
 この学則は、昭和62年4月16日から施行し、改正後の神戸大学学則の規定は昭和62年4月1日から適用する。

を

経済学部				
文部事務官	寺西 章好	5.1	配置換(教養部文部事務官)	
経営学部				
助手	梅本 真由美	5.1	採用	
	藤井 加保里	4.30	退職(助手)	
理学部				
助教授	西村 幹夫	4.16	昇任(名古屋大学農学部附属生化学制御研究施設助手)	
(附属臨海実験所)				
所長	榎本 幸人	4.2	併任(助教授)	
医学部				
助手	木崎 智彦	4.30	退職(助教授)	
	堀田 芳樹	4.16	採用	
	原田 晋	5.1	"	
	村上 勇	"	出向〔大分医科大学医学部助手〕(助手)	
	嘉悦 博	4.15	退職(助手)	
教務助手	石川 二三恵	4.2	再任用	
事務補佐員	久米 葉子	4.11	採用	
技術補佐員	米津 直子	4.16	"	
医学部附属病院				
助教授	奥村 勝彦	4.16	転任(京都大学医学部附属病院助教授)	
	高野 新二	4.30	退職(講師)	
助手	原田 義昭	4.15	復職	
	阿部 廣己	4.16	転任(国立療養所兵庫中央病院神経内科医長)	
	具 英成	"	採用	
	山本 恭助	"	"	
	浜口 毅樹	"	"	
	前田 均	"	"	
	坂本 長逸	"	"	
	深澤 高士	5.1	"	
	清水 雅史	"	"	
	馬場 久光	4.8	退職(助手)	
	謝 典穎	4.30	退職()	

耳鼻咽喉科 病棟医長	谷口俊夫	4.30	退職(助手)
	岩澤泰裕	"	"()
	木西實	5.1	命()
麻酔科 医局長	前川信博	4.16	"(医学部助手)
	尾原秀史	"	免(" 助教授)
副薬劑部長 (薬劑部)	奥村勝彦	"	命(助教授)
	清原義史	4.16	採用
薬劑師	大島道子	4.15	退職(薬劑師)
	岩城晃一	4.16	採用
技能補佐員 (看護部)	清原義史	4.15	退職(技術補佐員)
	笹川和美	4.9	職務復帰
看護婦	堀川千秋	4.16	"
	小原晶子	4.9	4月8日限り任期満了退職(看護婦)
(事務部) (管理課)	松本文昭	5.1	昇任(経済学部会計主任)
	生島幸夫	4.30	退職(整備掛長)
文部事務官 (医事課)	大内昭吾	5.1	採用
	藤田順子	"	"
工学部 教授	嶋田勝次	4.16	昇任(助教授)
	中本聡	"	採用
	芳井隆	4.8	退職(文部技官)
	木下幸恵	4.11	採用
	宮脇邦佳	5.1	"
事務補佐員	吉中由紀代	4.30	退職(事務補佐員)
	市浦光雄	4.16	採用
農学部 (附属農場)	川端柳太郎	4.9	死亡(教授)
	足立久司	5.1	配置換(教育学部文部事務官)

事務補佐員	船越弘子	4.11	採用
"	白阪ゆかり	4.13	"
"	山崎由貴	"	"
大学院自然科学研究科			
助手	馬場俊秀	5.1	転任(高知工業高等専門学校工業化学科助教授)
	柏木弘	4.30	退職(助手)
医療技術短期大学部			
助教授	鈴木志津枝	5.1	採用

◇研修

*昭和62年度新規採用看護婦研修

本年4月1日付けで採用した52名の看護婦を対象に次のとおり研修を行いました。

目的：国家公務員としての在り方を学び、大学病院における看護婦の使命と責任を自覚させ、職場への適応をはかる。

期間：昭和62年4月1日(水)～4月4日(土)

会場：医学部附属病院病棟2階第4講堂

*昭和62年度近畿地区新採用職員研修(Ⅲ種)

期間 昭和62年4月7日～4月10日

会場 労働省大阪産業安全技術館

主催 人事院近畿事務局

参加者 医学部附属病院管理課施設掛

国見新吾

*昭和62年度近畿地区新採用職員研修(Ⅱ種)

期間 昭和62年4月21日～4月24日

会場 労働省大阪産業安全技術館

主催 人事院近畿事務局

参加者 工学部用度掛 西村泰雄

◇海外渡航

所属	職名	氏名	渡航先	渡航目的	渡航期間	備考
文学部	教授	池上忠治	アメリカ合衆国	「近代日本美術における連続と変化」セミナーに出席及び近代美術の資料収集	62.4.4 } 62.4.23	研修
法学部	"	神崎克郎	"	米国におけるエドガー・システムによる企業内容開示の調査	62.4.5 } 62.4.11	"
経営学部	助教授	加護野忠男	"	日米欧の巨大組織におけるイノベーションについての国際比較研究プロジェクトの打合せ及び研究・資料収集	62.4.22 } 62.5.6	"
理学部	助手	原田勲	ドイツ連邦共和国	低次元固体物性の理論的研究	62.4.2 } 63.3.31	出張
"	"	御堂義之	スペイン オーストリア オランダ	エチルハロアセテート類の振動スペクトルの研究及び国際FT分光学会、欧州分光学会出席	62.4.6 } 62.10.8	"
医学部	助教授	船原芳範	インドネシア	デング出血熱に関する研究交換	62.4.13 } 62.4.22	研修
"	助手	安藤啓司	アメリカ合衆国	視覚生理学に関する研究	62.4.14 } 62.5.31	"
"	"	木村照	オランダ 連合王国	小児耳科学に関する国際シンポジウム出席並びに耳科学と口蓋裂に関する研究交換のため	62.4.19 } 62.5.5	"
"	助教授	水野耕作	台湾	1987年度台湾整形外科学会出席並びに整形外科学に関する研究交換のため	62.4.24 } 62.4.29	"
"	教授	藤田拓男	アメリカ合衆国	日米医学協力栄養異常パネル出席のため	62.4.25 } 62.5.3	"
"	"	西塚泰美	"	脂質研究に関するチルトン講演会出席及び生化学に関する研究交換のため	62.4.29 } 62.5.8	出張
医学部 附属病院	助手	黒坂昌弘	オーストラリア 香港	第5回国際膝関節学会及び1987年スポーツ医学研究会出席	62.4.4 } 62.4.13	"
"	"	吉矢晋一	"	"	"	"
"	講師	中村肇	アメリカ合衆国	1987年度米国小児科学会出席並びに新生児黄疸に関する研究交換のため	62.4.23 } 62.5.4	研修
"	助手	上谷良行	"	1987年度米国小児科学会出席並びに新生児学に関する研究交換のため	"	"
工学部	教授	前川純一	ギリシア イタリア	国際音響学コミッション出席並びに建築音響に関する研究交換	62.4.3 } 62.5.8	"
"	助教授	田中克己	ドイツ連邦共和国	非正規関係と複合オブジェクトの理論と応用に関するワークショップ出席及びデータベースに関する研究交換	62.4.3 } 62.4.12	"
"	教授	村上温夫	イタリア 連合王国	国際数学教育会議シンポジウム出席並びに人工知能に関する研究交換	62.4.4 } 62.4.13	出張

工学部	助教授	富田 佳宏	スペイン	計算塑性力学に関する国際会議出席及び計算力学に関する研究交換	62. 4. 4 62. 4.18	出張
"	教授	正井 満夫	ニュージーランド オーストラリア	メタン変換に関するシンポジウム及び炭化水素の活性化に関するシンポジウム出席並びに触媒化学に関する研究交換のため	62. 4.25 62. 5.10	研修
"	"	岩田 一明	台湾	コンピューター機械設計 (CAD) 数学方法検討会出席	62. 4.26 62. 4.29	"
農学部	(附属農場長)	山口 禎	ジャマイカ	コーヒー生産に関する調査及び資料収集	62. 4. 3 62. 4.11	"
教養部	助手	原 俊雄	アメリカ合衆国	原子核乾板を使った高エネルギー重イオン反応でのハイパー核の生成の研究	62. 4. 1 62. 4.23	"

学 事

◇学位取得

このたび、本学教官に対し、下記のとおり学位が授与されました。

氏名(所属・職名)	学位の種類	授与年月日 授与大学名	論文題目
倉 沢 行 洋 教 養 部 教 授	文学博士	昭和61年3月24日 京都大学	藝道の哲学 ——宗教と藝の相即——
鋒 井 修 一 工 学 部 助 手	工学博士	昭和61年11月25日 京都大学	湿った建築壁体の熱的特性に関する基礎的研究
平 川 和 文 教 養 部 助 教 授	医学博士	昭和62年1月23日 京都府立医科大学	踏み台昇降運動時エネルギー代謝量の推定 ——身体特性と機械的効率からの検討——
合 田 清 教 養 部 助 教 授	文学博士	昭和62年3月2日 東京都立大学	ポントック族の社会構造と世界観
五百旗頭 法 学 部 法 教 授	法学博士	昭和62年3月23日 京都大学	米国の日本占領政策 ——戦後日本の設計図——
後 藤 博 彌 教 養 部 教 授	理学博士	昭和62年3月24日 大阪市立大学	上月一龍野帯とその周辺に分布する中古生界の地質学的研究
宮 澤 節 生 法 学 部 法 教 授	法学博士	昭和62年3月25日 北海道大学	犯罪捜査をめぐる第一線刑事の意識と行動 ——組織内統制への認識と反応——

◇昭和62年度科学研究費補助金の交付内定

このたび、文部省から昭和62年度科学研究費補助金の交付内定の通知がありました。

補助金の交付が内定した研究課題等は、次のとおりです。

なお、末尾に過去3年間の部局別交付状況を掲載しております。

研究課題名	研究代表者		交付内定額 (千円)	備考 (千円)
	所属部局 職 名	氏 名		

がん特別研究 (1)

高発癌性遺伝病の修復欠損要因と修復遺伝子の解析	医学部 教 授	藤原 美定	11,500	
Boron 10・モノクローナル抗体による癌の選択的原子炉療法の研究	医学部 教 授	三島 豊	12,400	
癌細胞のマーカー染色体と癌遺伝子発現の関係についての分子細胞遺伝学的研究	医学部 教 授	杉山 武敏	13,400	
合 計		3 件	37,300	

がん特別研究 (2)

細胞増殖・がん化に伴うイノシトールリン脂質キナーゼの変化とチロシンキナーゼの役割	理学部 助 手	深見 泰夫	1,900	
細胞の癌化におけるCキナーゼと癌遺伝子の相互作用	医学部 教 授	高井 義美	10,800	
合 計		2 件	12,700	

重点領域研究 (1)

ASEANとアジアNICsにおける社会変動の比較研究 ——都市・農村関係を中心に——	文学部 助 教 授	北原 淳	3,000	
合 計		1 件	3,000	

重点領域研究 (2)

豪雨による表層崩壊の災害危険予測図作成に関する研究	工学部 助 教 授	沖村 孝	2,500	
アモルファス太陽電池のキャリア再結合中心の探求	工学部 助 教 授	林 真至	3,000	
フッ化物ガラスにおけるフッ化物イオン高電導度機能とフッ化物イオン伝導メカニズム	理学部 助 教 授	河本 洋二	1,800	
励起分子の前期解離と非断熱相互作用のダイナミクス	理学部 教 授	加藤 肇	2,500	
フッ素原子の特性を利用した超効率新增炭素手法による分子変換	工学部 教 授	北條 卓	1,500	
低速電子線回折と角度分解光電子分光による表面吸着構造の解析	工学部 教 授	金持 徹	3,300	
半導体ナノグレインの光散乱	工学部 教 授	山本 恵一	2,800	

深層水中に存在する有機物の起源とその流転過程に関する研究	大学院 自然科学 研究手	田上英一郎	1,500	61. 4. 1 転出
原始地球大気におけるマグマオーシャンの影響-希ガスの溶解度-	理学部 助教	松田 准一	3,700	
HTLV-I 感染によるT細胞永続性増殖の機序とHTLV-1 遺伝子転写調節因子	医学部 附属病院 講師	中尾 實信	2,000	
Protein Kinase C の構造と機能、並びに細胞増殖の調節	医学部 教授	西塚 泰美	20,000	
カエル卵細胞へのmRNA注入による光受容分子の電気生理学的研究	医学部 講師	安藤 啓司	1,000	
神経伝達物質によるイノシトールリン脂質代謝の制御機構	医学部 教授	高井 義美	1,200	
合計	13 件		46,800	

特定研究 (1)

カルシウムイオンと細胞機能	医学部 教授	西塚 泰美	26,200	
日本語の名詞句の指示性に関する研究と定・不定推定システムの作成	教養部 講師	金水 敏	1,700	62. 3.31 辞職
超強磁場下のミュオン物理	理学部 教授	本河 光博	21,700	
合計	3 件		49,600	

特定研究 (2)

談話における文の文型と通達上の機能に関する研究	文学部 助教	尾上 圭介	1,000	
モジュール構造対応ペプチドの発想ならびに構造と機能	理学部 助教	橋 秀樹	1,100	
シナゴスの可塑性におけるCキナーゼの役割	医学部 教授	高井 義美	1,200	
合計	3 件		3,300	

総合研究 (A)

我が国における分子病理学の振興・体系化に関する総合研究	医学部 教授	杉山 武敏	1,000	(継続)
沖縄における村落社会構造の研究	文学部 助教	北原 淳	3,000	(") 63年度 1,000
都市の社会構造と自治に関する総合的研究	文学部 助教	岩崎 信彦	3,000	(")
国際資金循環表の作成と国際資金過不足分析の理論的・計量的研究	経済学部 教授	則武 保夫	4,000	(") 63年度 3,000
経済会計の発展と経営分析への適用に関する研究	経済経営 研究所 教授	能勢 信子	3,000	(")
気液二相流の流動現象の体系化に関する総合的研究	工学部 教授	赤川 浩爾	2,200	(")

近世初期から現在に至る村落と同族団の史的変遷-長野県南佐久郡の実証研究-	文学部 教授	長谷川善計	3,500	63年度 3,500
外国判決・仲裁判断の承認・報行法の改正に関する比較法的及び実証的研究	法学部 教授	西 賢	3,000	63年度 2,000 64年度 1,000
イギリスにおける刑事司法改革の研究	法学部 教授	三井 誠	2,500	63年度 1,200
動態的国際分業と多国籍企業	経済学部 教授	池本 清	3,200	63年度 2,500
生産における知識獲得ならびに知識表現に関する研究	工学部 教授	岩田 一明	6,400	63年度 5,500
合計	11 件		34,800	

総合研究 (B)

汎太平洋地域情報マルチメディアデータベースの構築とそれに基づく地域総合研究	経済経営 研究所 教授	片野 彦二	1,200	
合計	1 件		1,200	

一般研究 (A)

電子欠乏性オレフィン類の反応性の解析とその合成化学への応用	理学部 教授	世良 明	1,000	(継続)
作物生産における炭素及び窒素の動態とそれらの効率的利用に関する研究	農学部 教授	丹下 宗俊	1,400	(") 63年度 2,800
生体膜の情報受容と伝達機構の生理と病態: プロテインキナーゼCの研究	医学部 教授	西塚 泰美	3,900	(") 63年度 4,000
損害賠償交渉過程に関する法社会学的研究	法学部 教授	西原 道雄	2,000	(") 63年度 1,000
重いクオーク崩壊実験に用いる粒子識別装置の開発研究	理学部 教授	藤井 忠男	5,100	(") 63年度 3,000
冠動脈外科領域におけるレーザーの応用と末期的症例の対策	医学部 助教	岡田 昌義	3,000	(") 63年度 1,000
噴火の素過程-部分溶融体の発泡と不安定機構-	理学部 教授	藤井 直之	11,100	63年度 2,200
レーザー二重共鳴・分子線・磁場を併用した高分解能分光と光解離過程の研究	理学部 教授	加藤 肇	18,600	63年度 1,700 64年度 4,000
副甲状腺ホルモンの酵素的分解とその調節	医学部 教授	藤田 拓男	8,000	63年度 2,000 64年度 2,000 65年度 2,000
合計	9 件		54,100	

一般研究 (B)

60年代の高成長期以降における国際分業体制の調整過程に関する実証的分析	経済経営研究教授	片野 彦二	600	(継 続)
解離性大動脈瘤に対する外科療法 —カテーテルによる解離口閉鎖法の開発—	医学部附属病院助手	小澤 修一	300	(")
抗hCG抗体によるhCG産生腫瘍の特異的免疫療法	医学部附属病院助教授	松本 修	2,100	(")
内分泌, 代謝学的立場からとらえた胎児の発育, 仮死発症の機作に関する総合的研究	医学部教授	望月 真人	400	(")
看護方法における移動技術の効率性に関する研究	医療技術短期大学部助教授	細野喜美子	600	(") 62. 4. 1 転出
現代アメリカ教育改革の実施過程に関する実証的比較研究	教育学部教授	平原 春好	500	(")
背弧海盆(特に日本海と沖縄トラフ)の地磁気三成分異常の研究	理学部助教授	伊勢崎修弘	800	(")
超高圧ポンプの非接触シールによる不安定振動発生機構の実験的研究	工学部教授	岩壺 卓三	2,700	(継 続)
マイクロプロセッサの立体アレイによる3次元情報の高速処理に関する研究	工学部教授	前川 禎男	1,400	(")
耐熱性β-アミラーゼ生産菌株の育種	農学部教授	新家 龍	1,800	(")
アセトラクテート合成酵素阻害を指標とした低毒性・強力除草剤開発に関する研究	農学部教授	松中 昭一	1,000	(") 63年度 1,000
組織培養によるナシの花芽誘導に関する研究	農学部教授	一井 隆夫	1,000	(")
ドパミンによるニューロペプチド生合成制御に関する遺伝子工学的研究	医学部教授	田中千賀子	1,500	(")
モノクローナル抗体を用いる遺伝子異常の分子病理学的研究	医学部教授	杉山 武敏	1,000	(") 63年度 1,000
動脈硬化の発症と進展に関する研究—血小板と血管壁細胞との関連について—	医学部教授	福崎 恒	1,000	(")
単クローン性膝ラ島細胞膜抗体によるI型糖尿病の発症仮説とその予防に関する研究	医学部教授	馬場 茂明	1,000	(") 63年度 1,000
老人骨折の原因究明に関する研究	医学部助教授	水野 耕作	500	(")
妊娠中毒症の症態解明, 発症予知ならびに潜在性胎児仮死発症予知に関する総合的研究	医学部講師	森川 肇	500	(") 63年度 400
遺伝性高脂血症ウサキWHHLの心筋梗塞好発系の育成に関する研究	医学部助教授	渡辺 嘉雄	1,500	(") 63年度 1,500
占領下における対外関係の自立化過程 —GHQ/SCAP文書による実証的研究—	法学部教授	安藤 仁介	500	(")
カラー画像情報に基づく非定常流動現象の実時間計測に関する研究	工学部教授	高森 年	900	(")
医用画像の3次元構造情報計測に基づく定量的評価に関する研究	医学部助教授	西山 章次	1,000	(")
東南アジア地域の義務教育・教科用図書に関する比較研究	教育学部教授	杉山 明男	3,500	63年度 1,200 64年度 500
難削材の超精密切削加工に関する研究	工学部教授	森脇 俊道	3,200	63年度 2,800

均質化機構による二相膨張ノズルの性能向上の研究	工学部教授	赤川 浩爾	5,100	63年度 2,800
マニピュレータの自律制御システムの開発	工学部教授	北村 新三	4,000	63年度 1,300
不飽和地盤のせん断特性に関する研究	工学部助教授	軽部 大蔵	4,300	63年度 1,300 64年度 1,100
住宅統計の評価と再編成に関する基礎的研究	工学部教授	早川 和男	2,100	63年度 1,600
機能性ハライドガラスおよび機能性金属ガラス中の鉄と錫のメスbauer分光研究	理学部助教授	河本 洋二	6,000	63年度 1,300
熱帯資源植物の耐塩性細胞における耐性機構に関する研究	農学部助教授	安田 武司	4,100	63年度 1,500
アルコール代謝の個人差と酵素多型との関係	医学部教授	溝井 泰彦	4,500	63年度 1,000
肝臓癌の集団検診に関する研究—肝スクリーニングのための画像診断法の研究—	医学部教授	河野 通雄	3,200	63年度 1,400 64年度 1,800
ステロイド性大腿骨頭壊死の成因ならびに予防法に関する研究	医学部講師	川井 和夫	2,800	63年度 700 64年度 700
イノシトールリン脂質代謝を介する細胞膜受容伝達機構	医学部教授	高井 義美	4,200	63年度 2,000
酵母のミトコンドリアのリボソーム形成における核とミトコンドリアの協調	理学部教授	磯野 克己	3,600	63年度 1,000 64年度 1,000
合 計		35 件	73,200	

一般研究 (C)

銅基形状記憶合金の記憶性能劣化とその防止	工学部助教授	猪飼 靖	500	(継 続)
発達心理学及び小児神経学的見地を統合した乳児期の情緒と行動制御に関する研究	教育学部教授	古澤 頼雄	800	(")
わが国の公的金融—歴史, 制度および理論—	経済学部助教授	瀧川 好夫	500	(")
日本企業の内なる国際化—人事管理とコントロール・システムの国際化を中心にして—	経済経営研究教授	吉原 英樹	500	(")
企業合併の歴史の実証的研究—明治期以後の綿糸紡績業を事例として—	経済経営研究助教授	矢倉伸太郎	500	(")
競合する相互作用をもつ量子スピン系の理論的研究	理学部助教授	利根川 孝	400	(") 63年度 300
葉緑体チラコイド膜におけるフェレドキシン-NADP還元酵素の結合機構	理学部助教授	新 勝光	300	(")
混晶半導体用瞬時電気・光学分光評価装置に関する研究	工学部助教授	本郷 昭三	500	(")
都市景観形成のための建築物の規制・誘導手法に関する研究	工学部教授	嶋田 勝次	800	(") 63年度 300
都市・山村の二拠点型生活に着目した定住性の発展に関する研究	工学部講師	重村 力	300	(")
植物培養細胞及び細胞内器官の増殖制御機構の解析	農学部助手	中村 千春	500	(") 63年度 500
コンクリートのAEと応力拡大係数との関係についての研究	農学部教授	尾崎 叡司	700	(")

作条の画像情報検出に関する基礎研究ならびには場作業自動化への応用	農学部 助手	堀尾 尚志	500	(継続) 63年度 100
ニワトリ・オルニチントランスカルバミラーゼ遺伝子の組織特異的発現とプロセッシング	農学部 助教授	辻 荘一	600	(")
ヤギ精巣精子の in vitro での成熟誘起に関する研究	農学部 助教授	加藤征史郎	500	(")
鶏の体脂肪の蓄積制御に関する栄養生理学的研究	農学部 助教授	長谷川 信	300	(")
ブドウ球菌の宿主粘膜上皮細胞への付着とその付着因子の解析	農学部 助教授	清水 晃	300	(")
神経伝達物質の遊離機構におけるプロテインキナーゼCの役割に関する研究	医学部 助教授	谷山絃太郎	300	(")
リンパ性白血病の多方向性成熟化における細胞膜の構造と機能	医学部 助教授	前田 盛	500	(")
コンピューターシミュレーションによる頭部外傷の法医学的解析	医学部 講師	藤原 敏	300	(")
血管内皮及び平滑筋細胞における細胞膜を介する情報伝達機構と収縮・拡張反応	医学部 助教授	横山 光宏	1,000	(")
母体喫煙の新生児赤血球酸素運搬能に及ぼす影響	医学部 附属病院 講師	中村 肇	300	(") 63年度 300
¹⁰ B化合物の黒色腫細胞内集積性の解析と熱中性子捕捉効果増強	医学部 助教授	市橋 正光	1,000	(")
遺伝子レベルでの糖尿病の解析と高危険因子群の予知と予防	医学部 附属病院 助教授	土井 邦紘	600	(") 63年度 400
小児多臓器不全に対する生命維持装置開発の実験的研究	医学部 附属病院 助手	久野 克也	1,000	(")
髄液循環障害の頭蓋内圧、血行動態、脳代謝に及ぼす影響に関する実験的臨床的研究	医学部 助教授	玉木 紀彦	800	(") 63年度 500
脳浮腫の行動学的及び生化学的研究	医学技術 短期大学 部 教授	山口三千夫	400	(") 63年度 400
肺組織DNAのメチル化からみた肺の成熟と分化	医学部 附属病院 講師	保科 春美	700	(")
ヒト胎盤蛋白ホルモンならびに癌遺伝子の制御機構からみた絨毛の分化と癌化	医学部 助手	保科 眞	500	(") 63年度 400
絨毛由来ホルモンの正所性、異所性産生制御機構とその修飾に関する分子内分泌学的解析	医学部 附属病院 講師	丸尾 猛	400	(") 63年度 400
細胞回転を基礎とした数理モデルの適用による急性白血病治療過程のモニタリングの研究	医学部 助教授	山口 延男	900	(")
プラトンにおける実体概念の展開について	文学部 助教授	眞方 忠道	1,100	
運動制御行動における運動図式の役割	文学部 助教授	森清 善行	1,400	
戦後教育改革期における家庭科教育の成立過程研究—CIE文書の検討を中心として—	教育学部 助教授	朴木佳緒留	1,000	
ソビエト連邦の政治構造の諸相に関する史的研究	文学部 助教授	石井 規衛	800	63年度 500
先進国と中進国のマクロ経済の調整プロセスの比較	経済経営 研究所 助教授	井川 一宏	900	

金融の自由化の金融政策に及ぼす影響についての計量的国際比較研究	経済経営 研究所 助教授	石垣 健一	1,000	
会計監査業務における統計的手法の実務的応用システムに関する研究	経営学部 助教授	森 實	1,000	63年度 500 64年度 300
わが国におけるコントローラー制度に関する実証研究	経営学部 助教授	谷 武幸	1,000	63年度 500
有限代数系の組合せ論的考察	教育学部 助教授	田村 三郎	700	63年度 700 64年度 700
時間遅れをもつ分布制御系の研究	工学部 講師	中桐 信一	700	
概周期的な解の研究と力学系	教養部 助教授	江川 治朗	1,400	
確率微分方程式と制御理論への応用	理学部 助教授	西尾真喜子	2,500	
高エネルギー原子核—原子核相互作用における大多重現象の研究	理学部 助手	嶽 鐘二	1,800	
半導体における非線形電気伝導のカオス現象に関する研究	工学部 助手	青木 和徳	1,200	63年度 500
超伝導U化合物のNMR	教養部 助教授	小原 孝夫	1,600	63年度 200
岩石破壊のフラクタル次元	理学部 助教授	伊東 敬祐	2,000	
トロピリウムイオンを電子受容体とする分子内電荷移動相互作用と立体配座について	教養部 助教授	山村 公明	1,500	
II電子を側鎖にもつチアクラウンの合成とそれらを用いるクラスb金属の選択的抽出分離	理学部 助教授	関戸 榮一	1,800	
海洋の低次食物連鎖における微小動物プランクトンの役割に関する研究	大学院自然 科学研究科 助手	田上英一郎	1,500	63年度 400 62. 4. 1 転出
高速変形下での塑性不安定及び変形の局所化現象の発生機構の解明と発生限界の予知	工学部 助教授	富田 佳宏	1,600	63年度 400
SF ₆ ガス中部分放電パルスの周波数解析によるGISの外部診断	工学部 助教授	荒井 健次	1,400	63年度 300
高速リングネットワークにおける競合形アクセス制御方式の開発	工学部 助教授	岡田 博美	1,000	
ロボットアーム制御のための自律分散型すべり動作サーボ機構に関する研究	工学部 助手	安田 一則	1,500	
非線形複合システムにおける分岐現象とカオス	工学部 助教授	平井 一正	1,700	
トリフルオロメチル基を有するヘテロ環化合物の合成	工学部 助教授	北條 卓	1,500	63年度 500
高圧下における有機化合物の固液平衡に関する研究	工学部 助教授	蒔田 董	1,300	63年度 600
蒸留塔の知識ベーススタートアップオペレーションに関する研究	工学部 助教授	中西 英二	1,200	63年度 800
渦の周期的衝突による伝熱・物質移動促進の研究	工学部 助教授	片岡 邦夫	1,000	63年度 700
単食性ハバチの同所性食草転換機構に関する研究	農学部 助教授	内藤 親彦	1,100	63年度 500 64年度 500
多連節型不整地走行車両の開発と操縦の自動化	農学部 助教授	山本 博昭	1,500	63年度 600

肉用種雌牛の検定・選抜システムの最適化に関する研究	農学部 助 手	向井 文雄	1,300		
脳内における記憶関連部位の同定	医学部 教 授	山鳥 崇	1,000	63年度	900
アルコール依存形成におけるテトラヒドロイソキノリンの関与	医学部 助 手	足立 順子	1,500	63年度	500
Epidermal growth factor の慢性関節リウマチ滑膜増殖への作用	医学部 助 手	塩澤 俊一	1,800		
磁性粒子を軸とした切除不能肝癌の集学的治療—特に化学塞栓温熱療法に関する研究	附属病院 助 教授	佐古 正雄	1,000	63年度 64年度	900 400
精神分裂病者死後脳における受容体の病態	医学部 助 手	三田 達雄	1,200	63年度	400
副甲状腺ホルモンの合成・代謝・作用機序に関する研究	医学部 教 授	吉本 祥生	1,000	63年度 64年度	500 400
肺移植に関する基礎実験—左右肺動脈血流分布からみた急性拒絶反応診断の確立—	医学部 助 手	山下長治郎	1,000	63年度	900
脳虚血急性期における血行再建術の有効性についてNMRからの検討	医学部 附属病院 講 師	藤田 勝三	1,100	63年度	700
核磁気共鳴法 (NMR) による幼若ラット脳障害における ¹ H, ³¹ P代謝の研究	医学部 教 授	松本 悟	1,200	63年度 64年度	500 300
人工関節置換術後に骨とセメントの間に形成される膜様物に関する免疫病理学的研究	医学部 助 手	井口 哲弘	700	63年度	400
絨毛性ゴナドトロピン (hCG) の癌性糖鎖変化の解析とその臨床応用	医学部 助 手	西村隆一郎	1,200	63年度	600
生殖機構における甲状腺ホルモンの作用機序に関する分子生物学的研究	医学部 助 教授	足高 善彦	1,500	63年度 64年度	200 300
リソソーム酵素および糖脂質分解活性化因子の糖鎖と細胞内転送機構に関する研究	医学部 助 教授	山下 克子	1,200	63年度	500
高エネルギーリン酸結合としてのタンパク質中のチロシンリン酸の研究	理学部 助 手	深見 泰夫	1,400		
局所ホモロジー探索による蛋白質の構造・機能ドメイン解析	理学部 助 教授	橘 秀樹	900		
中学校理科への風景教材の導入に関する実験的研究	教育学部 教 授	恩藤 知典	1,000		
合 計		78 件	76,900		

奨励研究 (A)

メルセッス・アカデミーを中心とした、近代科学成立の哲学的背景と意義に関する研究	教養部 助 教授	宗像 恵	800		
近世における職人の組織と経営—鑄物師を中心に—	文学部 助 教授	横田 冬彦	900		
アメリカの判例・法律・学説にみる「死を選ぶ権利」ないし生命維持治療拒否権の変容	法学部 助 教授	丸山 英二	700		
国際資金循環と基軸通貨の安定性に関する理論的・実証的研究	経済学部 助 教授	藤田 誠一	700		
商法計算書類における会計方針のディスクロージャーに関する実証研究	経営学部 助 教授	中野 常男	800		
減価償却方法の変更による利益操作に対する株式市場の賢明度に関する実証研究	経営学部 助 教授	桜井 久勝	800		

非線形微分方程式の解析的研究	大学院自然 科学研究科 助 手	下村 俊	800		
ラジカル反応の有機合成への応用	教養部 講 師	三宅 秀芳	800		
金属—チアクラウン錯体の分析化学的研究	教育学部 助 手	齊藤 恵逸	800		
藍閃変成帯における蛇紋岩メランジュの比較研究	理学部 助 手	前川 寛和	900		
ランダム荷重に対する逆問題有限要素法によるシミュレーション	工学部 助 教授	多田 幸生	900		
組立工程設計用エキスパートシステムに関する研究	工学部 助 手	杉村 延広	900		
生産システムにおけるソフトウェアの信頼性解析に関する研究	工学部 助 手	三道 弘明	900		
電場による高温物体浸漬冷却の促進と制御	工学部 助 手	竹中 信幸	900		
オブジェクト型知識データベースの設計方式とその操作言語に関する研究	工学部 助 教授	田中 克己	1,000		
論理形デジタル制御系の安定解析とその応用	工学部 助 手	潮 俊光	900		
知識工学的手法を用いたトンネルの支保パターンの決定システム	工学部 助 手	清水 則一	900		
エキスパート・システムを適用した都市の地価算定システムに関する研究	工学部 助 手	川井 隆司	900		
災害ハンディキャップ者のための建築防災評価システムに関する研究	工学部 教務職員	大西 一嘉	900		
Mn-Bi 多層蒸着膜接合界面における熱処理効果の高分解能分析電子顕微鏡による観察	工学部 助 手	山田 隆	900		
低温における高分子の結晶弾性率	工学部 助 手	西野 孝	900		
ナス科植物における不均等体細胞融合雑種育成法に関する研究	農学部 助 手	三十尾修司	800		
ブドウにおける菌根の機構及び動きに関する研究	農学部 助 手	河合 義隆	900		
ゴキブリ体内時計のインドールアミン制御機構	農学部 助 手	竹田真木生	800		
フィルターの設計に関する理論的並びに実験的研究	農学部 助 手	田中 勉	900		
超音波センサによる自脱コンバインの操向制御	大学院自然 科学研究科 助 手	鬼頭 孝治	900		
プロテインキナーゼCの細胞内局在および生合成部位に関する研究	医学部 助 手	斎藤 尚亮	800		
ヒト造血細胞分化に特異的な細胞膜糖蛋白質および核蛋白質の同定と機能解析	医学部 助 手	溝口 明	900		
Protein kinase C の分子多様性と組織特異性、及びその病態	医学部 講 師	吉川 潮	900		
プロスタグランジンによる細胞増殖の制御機構	医学部 助 手	山下 孝之	900		
乳幼児急死症候群と頸動脈小体のカテコラミンとの関係	医学部 助 手	上野 易弘	900		

心室性頻拍症患者における心室遅延電位の検出とQRS complex の周波数分析	医学部 附属病院 助手	井上 智夫	800	
冠動脈疾患における僧帽弁血流の動態解析と生理学的規定因子に関する研究	医学部 附属病院 助手	竹内 素志	500	
動脈硬化血管における内皮依存性及び内皮非依存性拡張反応の検討	医学部 助手	秋田 穂束	900	
血管平滑筋細胞の増殖制御機構におけるCキナーゼの役割とその病態	医学部 助手	川原 康洋	900	
細胞内蛋白質酸化反応よりみた慢性肉芽腫症の病態解析	医学部 附属病院 助手	上谷 良行	800	
アレルギー性薬疹の発症因子に関する研究・特に薬疹による免疫学的寛容の解除について	医学部 助手	熊谷 正彦	500	62. 3.31 辞職
ヨード化糖類化合物の脈管系造影剤への応用に関する研究	医学部 助手	廣田 省三	800	
脂質過酸化から見た放射線肺障害の発生機序の解明及びその予防に関する研究	医学部 附属病院 助手	御勢 久平	800	
神経ペプチドの行動分子生物学的作用と拒食症の治療の試み	医学部 助手	乾 明夫	700	
ヒト胃癌細胞の増殖動態に関する研究	医学部 附属病院 助手	井上 和則	800	62. 3.31 辞職
上矢状静脈洞閉塞モデルでの水頭症発現機序の研究	医学部 助手	児島 範明	700	
EthylNitrosourea (ENU) 胎生期投与による先天性水頭症の発生機序	医学部 附属病院 助手	住吉 弘充	500	
胎児発育におけるインスリン様成長因子 (IGF) の意義に関する基礎的、臨床的研究	医学部 助手	上田 康夫	900	
人眼における網膜血流の自動調節機構	医学部 助手	大久保 潔	800	
ヒト硝子体内増殖膜におけるコラーゲンの生成に関する研究 (分子生物学的アプローチ)	医学部 助手	片上千加子	800	
EMG-Biofeedback による筋再教育訓練の効果について	医療技術 短期大学 部 助手	武政 誠一	900	
ホウレン草チトクロムCのX線結晶構造解析	大学院 自然科学 研究科 助手	濱田 賢作	700	62. 5.16 転出
合 計		48 件	39,500	

試験研究 (1)

旧石器遺跡における炉床決定法の開発	理学部 教授	安川 克己	1,500	(継 続)
防錆橋梁現場継手部の耐荷性能安定化に関する研究	工学部 教授	西村 昭	2,800	(")
2軸曲げを受けるRC柱の定式化に関する研究	工学部 助 教授	藤井 学	800	(") 62. 4. 1 転出
SPSSXのレベルアップ	教養部 助 教授	依田 博	5,000	63年度 2,100
本邦金融機関の国際化の実態調査に基づくデータベース構築及びシステム開発の基礎研究	経済経営 研究所 研究 教授	藤田 正寛	4,800	63年度 3,100 64年度 3,000
コンクリート橋の耐用性診断システムの開発	工学部 助 手	宮本 文穂	4,300	63年度 1,900
合 計		6 件	19,200	

試験研究 (2)

杭基礎-地盤系の動的解析モデルに関する研究	工学部 教授	水畑 耕治	700	(継 続)
多国籍企業の海外事業活動に関するデータ分析・加工システムの基礎研究	経済経営 研究所 研究 教授	片野 彦二	3,000	(") 63年度 2,000
金属表面上への新規な塗膜形成システムに関するコロイド化学的研究	工学部 助 教授	大久保政芳	1,000	(") 63年度 500
作物学に関する可画像化情報の自動計測及び情報処理システムの開発研究	農学部 教授	丹下 宗俊	1,000	(") 63年度 400
空圧を利用する播種・間引き複合作業機の実用化に関する研究	農学部 助 教授	川村 恒夫	2,200	(") 63年度 1,300
プロテインキナーゼCの抗体作成、クローニング及び本酵素の特異的抑制剤の開発研究	医学部 教授	西塚 泰美	4,000	(") 63年度 4,000
埋め込み次元法による古環境時系列解析システムの開発	理学部 教授	伊東 敬祐	5,300	63年度 500
金属水素化合物アクチュエータによるロボット用ダイレクト駆動6自由度関節の試作研究	工学部 教授	高森 年	2,800	63年度 2,500
無機固体を触媒とする有機合成反応の開発に関する試験研究	工学部 教授	北條 卓	2,800	63年度 2,300 64年度 1,400
半導体メモリを利用した保健室来訪者データ入力操作盤の実用化試験	教育学部 助 教授	横尾 能範	1,000	63年度 500
合 計		10 件	23,800	

奨励研究 (A) (特別研究員)

研 究 課 題 名	研 究 代 表 者		交付内定額 (千円)	備 考 (千円)
	所属部局 職 名	氏 名		
<戯作>における特殊な発話体制について	神戸大学 大学院 文学 研究 科	常吉 幸子	1,040	(継 続)
高エネルギー陽子・原子核反応によるボトム粒子及びチャーム粒子の生成と崩壊の研究	神戸大学 理 学 部	高橋 美貴	1,000	(")

地磁気非双極子磁場源の活動周期と寿命	神戸大学理学部	兵頭 政幸	1,050	(継続)
深海底堆積物中の地球外起源物質	神戸大学大学院自然科学研究科	甘利 幸子	1,030	(") 転出
ダウン症児の乳幼児期の認知発達に及ぼす超早期教育の効果	神戸大学教育学部	岡崎 裕子	900	63年度 900
平安朝和歌における漢詩文受容とその変遷	神戸大学大学院文学研究科	丹羽 博之	850	63年度 850
合 計		6 件	5,870	

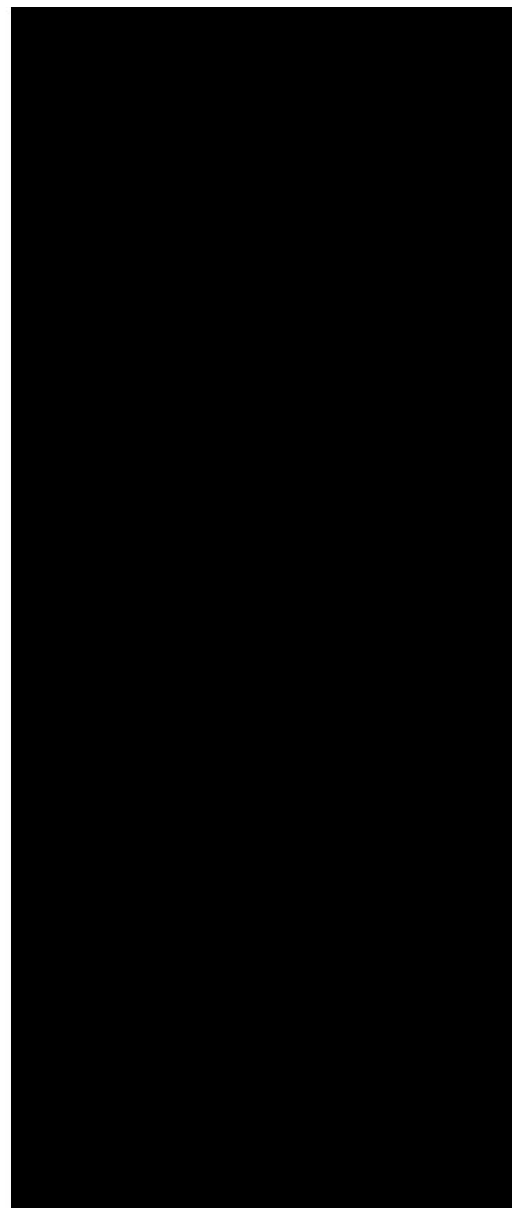
＊過去3年間の科学研究費補助金の部局別交付状況（海外学術調査を除く。）

区 分	昭 和 60 年 度			昭 和 61 年 度			昭 和 62 年 度		
	新 規	継 続	計	新 規	継 続	計	新 規	継 続	計
	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額	件数 金額
文 学 部	2 千円	2 千円	1 千円	7 千円	1 千円	8 千円	8 千円	3 千円	11 千円
文化学研究科	1,200	2,500	3,700	9,900	300	10,200	12,550	7,040	19,590
教 育 学 部	5 5,100	5 2,700	10 7,800	3 2,800	2 800	5 3,600	7 8,900	2 1,300	9 10,200
法 学 部	5 4,200		5 4,200	4 9,650		4 9,650	3 6,200	2 2,500	5 8,700
経 済 学 部	2 2,700	2 2,100	4 4,800	3 6,500		3 6,500	2 3,900	2 4,500	4 8,400
経 営 学 部	2 3,600		2 3,600	2 1,910	1 2,400	3 4,310	4 3,600		4 3,600
理 学 部	20 59,300	7 12,700	27 72,000	11 40,250	8 7,100	19 47,350	16 86,600	8 11,150	24 97,750
医 学 部	40 149,600	10 15,200	50 164,800	50 184,200	13 19,300	63 203,500	48 153,400	28 31,000	76 184,400
工 学 部	24 62,900	8 14,400	32 77,300	26 38,000	16 25,700	42 63,700	36 72,200	12 14,600	48 86,800
農 学 部	11 34,300	3 2,200	14 36,500	15 32,300	6 7,700	21 40,000	8 11,400	13 11,800	21 23,200
教 養 部	7 8,100	1 1,800	8 9,900	7 8,400	2 2,400	9 10,800	7 12,800		7 12,800
自 然 科 学 研 究 科	4 7,300		4 7,300	8 7,610	1 1,300	9 8,910	7 7,400	1 1,030	8 8,430
経 済 経 営 研 究 所	1 3,100	1 1,500	2 4,600	4 8,300	1 1,200	5 9,500	4 7,900	5 7,600	9 15,500
医 療 技 術 短 期 大 学 部	2 5,200		2 5,200	1 1,200	1 900	2 2,100	1 900	2 1,000	3 1,900
計	125 346,600	39 55,100	164 401,700	141 351,020	52 69,100	193 420,120	151 387,750	78 93,520	229 481,270

掲 示 板

◇職員住所変更等

・新任者住所



・住所・住居表示変更等

p.74

p.187

p.188

p.188

p.190

p.191

◇改 姓

部 局	官 職	氏 名	改 姓 日	旧 姓

日 誌

(昭和62年4月)

4月9日(木) 昭和62年度医療技術短期大学部入
学式

部局長会議

10日(金) 昭和62年度入学式(於 兵庫県立
文化体育館)

16日(木) 評議会

名誉教授称号授与式